



## 2022年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2022年5月12日

上場会社名 株式会社セルシード 上場取引所 東  
 コード番号 7776 URL <https://www.cellseed.com>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橋本 せつ子  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 最高財務責任者 (氏名) 小野寺 純 TEL 03-6380-7490  
 四半期報告書提出予定日 2022年5月13日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年12月期第1四半期の業績 (2022年1月1日～2022年3月31日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年12月期第1四半期	37	—	△191	—	△195	—	△199	—
2021年12月期第1四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年12月期第1四半期	△10.98	—
2021年12月期第1四半期	—	—

(注) 2022年12月期第1四半期累計期間より、四半期財務諸表を作成しているため、2021年12月期第1四半期の数値及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年12月期第1四半期	1,379	945	66.6
2021年12月期	1,408	1,044	72.4

(参考) 自己資本 2022年12月期第1四半期 918百万円 2021年12月期 1,019百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年12月期	—	—	—	—	—
2022年12月期 (予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年12月期の業績予想 (2022年1月1日～2022年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	75	△7.4	△409	—	△409	—	△411	—	△23.14
通期	209	29.8	△834	—	△834	—	△838	—	△47.19

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年12月期 1 Q	18,468,119株	2021年12月期	17,759,419株
② 期末自己株式数	2022年12月期 1 Q	154株	2021年12月期	154株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年12月期 1 Q	18,141,260株	2021年12月期 1 Q	16,358,550株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、2021年12月15日公表の「海外連結子会社の解散・清算に関するお知らせ」に記載の通り、2022年12月期第1四半期より非連結決算(単体決算)へ移行いたしました。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第1四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(会計方針の変更) .....	6
(セグメント情報等) .....	6
(後発事象) .....	7
3. その他 .....	8
継続企業の前提に関する重要事象等 .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の再拡大により、まん延防止等重点措置が再適用され、経済活動が大きく制限されました。

また景気の先行きにつきましては、原油価格の上昇に伴う原材料費の高騰、米国のインフレ加速、ウクライナ情勢の悪化といった様々な下振れリスクが重なり、かつてない不透明な状況が続いております。

当社はこのような環境の下、全社員の健康と安全を確保するため、在宅勤務などの対策により感染拡大防止に努めつつ再生医療支援事業及び細胞シート再生医療事業における活動を推進いたしました。その結果、当第1四半期累計期間における売上高は37,965千円、営業損失は191,778千円、経常損失は195,885千円、四半期純損失は199,281千円となりました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

#### ① 再生医療支援事業（細胞培養器材、製造受託など）

細胞培養器材事業では、細胞培養器材の開発・製造施設を新設し2021年9月より本格稼働しております。本格稼働により従来の再生医療市場における細胞培養器材の販売だけでなく、研究用細胞の大量培養を目的とした新たな用途での細胞培養器材製品の販売、特に海外の旺盛な需要に対応して参ります。

また、2022年4月より細胞培養器材のユーザー向けサポートサービスを開始し、今まで以上に顧客満足を第一とした事業展開を基本に業績向上に努めて参ります。

当社細胞培養センターを活かした再生医療を支援する再生医療受託事業については、引き続き共同研究先である東海大学より先進医療にかかる自己軟骨細胞シートの製造を受託し、第1四半期累計期間にはI症例の売上を計上いたしました。

以上のような活動の結果、売上高は37,965千円、営業損失は20,740千円となりました。

#### ② 細胞シート再生医療事業

細胞シート再生医療事業では、食道再生上皮シート及び同種軟骨細胞シートの細胞シート2品目の再生医療等製品の自社開発を中心とした研究開発を推進しております。

食道再生上皮シートは医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（薬機法）の下、2020年10月に治験届を提出後、追加治験を実施しており、製造販売承認申請の時期を2025年に予定しております。

同種軟骨細胞シートについては、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）採択事業として「同種軟骨細胞シート（CLS2901C）の製品化に向けたセルバンク構築を含む企業治験開始のための研究開発」を引き続きその支援を受けながら開発を進めています。この同種軟骨細胞シートの開発により、高齢化社会を迎え、ますます重要性が増している変形性膝関節症の治療に貢献することを目指しており、2022年末の治験届提出に向け準備を進めております。

海外展開におきましては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により遅れが生じているものの、今後も引き続き三顧股份有限公司（MetaTech(AP) Inc.）に対しての食道再生上皮シート及び軟骨細胞シート事業にかかる支援を行ってまいります。また台湾以外の新規事業先候補とも積極的に交渉を重ねてまいります。

以上のような活動の結果、営業損失は116,431千円となりました。

### （2）財政状態に関する説明

#### （資産）

当第1四半期会計期間末の流動資産は、前事業年度末に比べて26,498千円減少し、981,039千円となりました。これは、原材料及び貯蔵品が27,121千円増加した一方で、現金及び預金が55,823千円減少したことなどによります。

当第1四半期会計期間末の固定資産は、前事業年度末に比べて1,774千円減少し、398,896千円となりました。これは、有形固定資産が1,774千円減少したことによります。

この結果、当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて28,273千円減少し、1,379,935千円となりました。

#### （負債）

当第1四半期会計期間末の流動負債は、前事業年度末に比べて73,151千円増加し、244,435千円となりました。これは、賞与引当金が13,298千円増加したことなどによります。

当第1四半期会計期間末の固定負債は、前事業年度末に比べて2,477千円減少し、189,819千円となりました。これは、長期借入金金が2,500千円減少したことなどによります。

この結果、当第1四半期会計期間末の負債合計は、前事業年度末に比べて70,673千円増加し、434,254千円となりました。

（純資産）

当第1四半期会計期間末の純資産合計は、前事業年度末に比べて98,947千円減少し、945,680千円となりました。これは、新株予約権の行使による株式の発行により資本金及び資本剰余金がそれぞれ49,111千円増加した一方で、四半期純損失を199,281千円計上したことなどによります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、2022年2月14日発表の業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	846,674	790,850
売掛金	28,164	26,966
商品及び製品	24,315	18,891
仕掛品	763	4,058
原材料及び貯蔵品	16,459	43,580
その他	91,160	96,691
流動資産合計	1,007,537	981,039
固定資産		
有形固定資産	105,572	103,797
投資その他の資産	295,099	295,099
固定資産合計	400,671	398,896
資産合計	1,408,209	1,379,935
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	5,023	7,593
1年内返済予定の長期借入金	1,250	3,750
賞与引当金	4,486	17,785
その他	160,524	215,306
流動負債合計	171,284	244,435
固定負債		
長期借入金	158,750	156,250
資産除去債務	33,546	33,569
固定負債合計	192,296	189,819
負債合計	363,581	434,254
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,548,657	4,597,769
資本剰余金	1,770,454	1,819,566
利益剰余金	△5,298,692	△5,497,973
自己株式	△227	△227
株主資本合計	1,020,191	919,134
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△321	△321
評価・換算差額等合計	△321	△321
新株予約権	24,757	26,868
純資産合計	1,044,627	945,680
負債純資産合計	1,408,209	1,379,935

(2) 四半期損益計算書  
(第1四半期累計期間)

(単位：千円)

	当第1四半期累計期間 (自 2022年1月1日 至 2022年3月31日)
売上高	37,965
売上原価	21,552
売上総利益	16,412
販売費及び一般管理費	
研究開発費	108,102
その他	100,088
販売費及び一般管理費合計	208,190
営業損失(△)	△191,778
営業外収益	
受取利息	5
為替差益	636
受取手数料	84
その他	3
営業外収益合計	729
営業外費用	
支払利息	209
新株発行費	4,627
営業外費用合計	4,836
経常損失(△)	△195,885
特別損失	
減損損失	2,445
特別損失合計	2,445
税引前四半期純損失(△)	△198,331
法人税、住民税及び事業税	950
法人税等合計	950
四半期純損失(△)	△199,281

## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、新株予約権の行使に伴う新株の発行により、当第1四半期累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ49,111千円増加し、当第1四半期会計期間末において資本金が4,597,769千円、資本剰余金が1,819,566千円となっております。

(会計方針の変更)

収益認識に関する会計基準等の適用

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日）等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っておりますが、利益剰余金の期首残高へ与える影響はありません。

また、当第1四半期累計期間の損益に与える影響もありません。

時価の算定に関する会計基準の適用

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当第1四半期会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準が定める新たな会計基準を、将来にわたって適用することとしました。

なお、四半期財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

当第1四半期累計期間（自 2022年1月1日 至 2022年3月31日）

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
	再生医療支援 事業	細胞シート 再生医療事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	37,965	—	37,965	—	37,965
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	37,965	—	37,965	—	37,965
セグメント損失 (△)	△20,740	△116,431	△137,171	△54,607	△191,778

(注) 1 セグメント損失 (△) の調整額△54,607千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に経営企画部門に係る費用であります。

2 セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

各報告セグメントに配分していない全社資産において、固定資産の減損損失を計上しております。

なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期累計期間においては、2,445千円であります。

(重要な後発事象)

(新株予約権の行使による増資)

当社が2022年1月5日に発行した第22回新株予約権につき、2022年4月1日から2022年5月9日までの間に、以下の通り行使されました。

(1) 新株予約権行使の概要

- ① 新株予約権の名称  
株式会社セルシード第22回新株予約権
- ② 行使価格  
1株当たり129円～152円
- ③ 行使新株予約権個数  
17,669個
- ④ 行使者  
バークレイズ・バンク・ピーエルシー (Barclays Bank PLC)
- ⑤ 交付株式数  
1,766,900株
- ⑥ 行使価額総額  
249,458千円

(2) 当該新株予約権行使による発行済株式数及び資本金

- ① 増加する発行済株式数  
1,766,900株
- ② 増加する資本金の額  
124,958千円

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社は、当社新株予約権の行使による資金調達の実施等により、前連結会計年度末の手元資金（現金及び預金）残高は930,945千円となり、財務基盤については安定的に推移しております。一方で事業面におきましては細胞シート再生医療事業の重要課題である細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の道程を示すまでには至っておりません。以上のことから、当社グループは当第1四半期会計期間末において、引き続き継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在していると判断しております。

当社は当該状況の解消を図るべく、引き続き以下の施策に取り組んでおります。

#### 当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化の実現と事業提携の推進による収益機会の獲得

当社は、今後、食道再生上皮シート並びに軟骨再生シートの開発を推進し、当社細胞シート再生医療第1号製品の早期事業化を実現すること、また事業提携先の開拓を通じて、更なる収益機会を獲得していくことで当該状況の解消を図って参ります。